

「はむらの授業指針」教師の視点⑤

深い学びの実現に向けた支援がある

① 「見方・考え方」を働かせた学習活動の展開

深い学びの実現に向けた支援の鍵を握るのが、「見方・考え方」です。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりします。各教科等の習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要です。

各教科等の学習指導要領解説において示された「見方・考え方」は、当該教科等における主要なものであることから、それらの内容を踏まえながら、学習内容等に応じて柔軟に考えることが必要です。

なお、子どもたちが「見方・考え方」を働かせた学習活動を展開するに当たっては、単元や本時の学習内容に即して「見方・考え方」を分かりやすく説明する必要があります。

「見方・考え方」には、当該教科等を学ぶ本質的な意義が含まれていることから、子どもの学習意欲を高めることにもつながります。



② 主な学習例

教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や子どもの状況等に応じて、次に挙げる四つの学習のいずれかを実施することが、深い学びの実現につながります。

- 知識を相互に関連付けてより深く理解する。
- 情報を精査して考えを形成する。
- 問題を見いだして解決策を考案する。
- 思いや考えを基に価値を創造する。

天職

京セラ名誉会長、KDDI最高顧問、日本航空名誉顧問 稲盛和夫
「天職」とは出会うものではなく、自らつくり出すものなのです。

出典：「稲森和夫一日一言 運命を高める言葉」（稲盛和夫著 致知出版社）

※ 教職という尊い職を「天職」と認識する教師を、一人でも多く育てたいものです。